

平成 23 年度 12 月議会 (11/18~12/21) 一般質問項目

平成 23 年 11 月 18 日~12 月 21 日の日程で、宝塚市議会第 5 回(12 月)定例会が開催されました。いとう順一も、一般質問を 12 月 5 日に実施致しました。下記が質問内容です。

1.財政見直しについて

①宝塚市の財政構造について

市から出された財政見通しで、既に本年度の収支見通しは 2 億 5000 万円の赤字が見込まれているが、全国の特例市と宝塚市の財政構造を比較検討したところ、他の特例市に比べて人件費が突出している。他の特例市並みに人件費を削減すべき。

②今後の行財政改革について

全力で取りくまなければ、ならない、掛け声だけでは駄目だ。トップが陣頭指揮すべき。

2.信頼される行政の実現に向けた改革について

①監査制度について

外部監査制度の導入により、外観的信頼性、合規性、経済性・合理性・効率性を担保すべき。

②内部統制について

信頼される行政のためには、内部統制の仕組みを整備すべき。

③公会計改革について

固定資産台帳を整備し、資産負債会計の充実を図るため、総務省改定方式から、基準モデルへの会計方式の移行させ、より行政の施策が、企業会計の考え方を導入し、経済的・合理的・効率的に運営されるべき。

3.公金徴収の一元化

すべての公金徴収を一元化できるチームを作り、公平で公正な公金徴収態勢を整えるべき。

今回の一般質問では、財政とその正確性・そして公正で公平性を担保する制度のあり方について質問と提案をさせて頂きました。厳しい財政状況の下であることを関係者がまず認識し、時には一部の市民の皆様にご納得やサービス低下などのお願いをしなければならない時もあります。

そこでイデオロギーや政治的なことがあまりに大きく左右し、健全な財政を担保できないようではいけませんし、税金で糧を得ている人間がまずは、率先して身を切る努力をしていかなければ、市民の皆様にご納得をいただけることは無いでしょう。

市民から信頼される行政であるためには、公平で公正な公金の収納態勢、そして正確な財政を測る仕組みと、それによって作られた財政資料や、行政が行っている事業が VFM(バリューフォーマネー)(最小投入最大効果)に従ってなされ、それが正しいことを立証する外部の視点をいれ、市民に情報を公開して行くことが根本であります。

地方分権・地域主権は、「地方のことは地方で決め、地域のことは地域で決める」仕組みです。

しかし、そこには責任が必ず付いて回ります。権限は委譲されたけどどうやってやるのって事にならないように、国の仕組みや交付税に頼るばかりでなく、制度改革をどんどんやっていかなければ、各地の先進的な自治体は自立した自治体作りに取り組んでおりますので、乗り遅れると都市間競争に負け、いずれ宝塚市民からそっぽを向かれることになるでしょう。

そうなった時の損害は計り知れないものがあります。

既に宝塚市という地域ブランドも低下し、その兆候が出ています。その為にやらなければならないことは、何だろうという思いを込めて、質問させて頂きました。

宝塚市議会の一般質問では、議員一人当たり、90 分以内の持ち時間が与えられ、一次質問をした後、当局からの回答があります。その後、2 次質問で更に掘り下げ当局と一問一答でやり取りを行うといったやり方をしています。

私は 70 分で行いましたが、一次質問の内容は、ブログ <http://jito.jp> に載せておりますので、是非ご覧下さい。

**いとう順一 一般質問の様子は、83.5MHz FM 宝塚
1 月 17 日(木) 13:00 頃 から放送予定です。**

是非お聴きください！